

特集：看護・教養図書ガイド：私のお気に入りの一冊・道内著者インタビュー、他

ベストナース Nbest Nurse

道内の
看護職のための
専門情報誌

11
November
2013

定価 400円

平成25年11月1日発行(毎月1日発行)
平成3年3月20日第三種郵便物認可
第24巻 第11号 通巻285号

第20回看護・教養図書ガイド

私のお気に入りの一冊・道内著者 インタビュー・ジャンル別新刊案内

公益社団法人日本助産師会北海道・東北地区研修会

「人と未来を結ぶ 助産力～自分みがき!仕事みがき!」

北海道看護協会看護管理者懇談会

パネルディスカッション 「専門看護師・認定看護師の活動の実際と体制について」

スペシャリストファイル ～看護の開拓者たち

第8回 愛全病院 認知症看護認定看護師 森 真紀さん

高橋病院 (函館市)

看護部に歯科衛生士を常勤配置し、口腔ケアを提供

函館市の社会医療法人高橋病院 (高橋肇理事長・北村和宏看護部長、179床) では歯科衛生士を正職員として看護部に配置し、積極的に口腔ケアを実施する体制を構築しています。

2006年から介護保険制度に口腔機能の向上が介護予防



左から北村看護部長、川越由希子歯科衛生士、山本真紀子歯科衛生士

サービスとして位置づけられ、その重要性が現場の取り組みから認識されるようになりました。口腔機能の向上によって、

栄養状態の改善が図られ、筋力の向上や脱水症状の改善、食べる楽しみや会話といった社会交流、さらには閉じこもり防止やうつ病、認知症の予防効果まで

が指摘されています。北村看護部長は介護報酬の改訂等も背景に、こうした専門的口腔ケアの必要性を踏まえ、歯科衛生士の採用に踏み切ったと

いいいます。2006年、介護保険に口腔機能維持管理加算が導入され、さらに2012年の改正で口腔機能維持管理加算が口腔機能維持管理加算(30単位/月)に名称変更され、口腔機能維持管理加算(110単位/月)が新設

されました。口腔ケアは誤嚥性肺炎予防や経口摂取維持、QOL向上において重要であるとの認識からです。

現実的には介護病棟(60床)においてこの加算分だけで人件費をねん出することは厳しい状況ですが、口腔ケアの重要性を踏まえ改正を契機に歯科衛生士の採用を決めました(北村看護部長)。

歯科衛生士は昨年8月に1名を配置し、当初は介護病棟だけで取り組みを開始。一定の効果をあげたことから、今年4月にはもう1名を採用し、全入院患者を口腔ケアの対象として取り組んでいます。

「当院は回復期リハビリテーション病棟(60床)も有し、急性期を脱した患者さんを多職種によるチーム医療によって生活の場に戻すという役割を担っています。切れ目のない医療を提供するためには、リハビリチームの中に歯科衛生を加えることが重要だと考え、病棟に常勤配置しました」。

回復期リハビリテーション病棟の対象となる患者の主な疾患は、脳卒中、肺炎、心疾患、大腿骨骨折など。この多くが高齢者であり、そのほとんどに①口腔の状態②歯や義歯の状態③口腔粘膜の状態④歯肉の状態⑤舌

の状態、といった問題がみられるといます。こうした口腔内の問題があれば、食欲が低下し、さらに活動量が低下するといった悪循環を引き起こしかねません。歯科衛生士の常勤化はこのような状況の中で、非常に大きなものとなっています。

全入院患者を対象にスクリーニングを実施

歯科衛生士の業務の流れとしては、まず電子カルテで新規入院患者の入院日時を確認し、日程調整のうえスクリーニングを実施。スクリーニング結果を診療録に記載し、歯科治療が必要であれば、看護師に連絡して、委託している歯科医師に治療依頼書を作成し、治療につなげます。

また、スクリーニングで口腔ケアが必要であると判断されれば、アセスメントを行ったうえで、口腔ケアを実施し、2週間後に再アセスメントをする流れとなります。

歯科衛生士は看護師に口腔ケアの指導も行っており、歯科衛

生士が介入する必要のない患者の場合は看護師が維持的ケアや口腔衛生指導を行い、2週間後に歯科衛生士が再アセスメントを実施。その結果を踏まえ、看護スタッフへの再指導か、歯科衛生士自身が口腔ケアを行う流れとしています。

こうした方法によって、歯科衛生士は直接的、関節的に全入院患者に関わり、同病院における口腔機能維持の向上に大きく貢献しています。

歯科衛生士が直接口腔ケアを実施する場合は、一人あたり5分程度の時間をかけ、ていねいにケアを提供。嚥下機能の低下や舌苔が多く誤嚥性肺炎が懸念されるなど、ハイリスクの患者にはケアが15分程度に及ぶなど、専門家ならではの取り組みが進められています。

病棟では歯科医を交えた定期的な口腔カンファレンスや、看護師、介護福祉士、ケアマネジャー、言語聴覚士、管理栄養士などを含めた多職種でのカンファレンスが行われ、歯科衛生士も重要な役割を担っています。

口腔ケア実施でさまざまなメリットが

「歯科衛生士の常勤化によって早期から口腔内環境の改善に向けてのアプローチが可能になりました。このことで食欲が増進し、栄養状態も改善され、運動機能や免疫力の向上、また二次的障害の予防も期待できると考えます。

口腔内の状況は、患者さん個々によって異なるため、とくに誤嚥性肺炎のリスクの高い方には、個々に応じた口腔ケア方法を選択する必要があります。

歯科衛生士による適切なケアの実施や、歯科衛生士の指導による看護スタッフの維持的ケアの提供は、ハイリスクの患者さんにとって有効な取り組みとなっています」と看護部長は評価。

実際にこれまでのアセスメント結果から口腔内のトラブルは確実に減少していることが明らかになっています。誤嚥性肺炎の発症率の低下も明らかとなっており、歯科衛生士の介入前と介入後で発熱回数が減少したデータも得られるなど、今後は

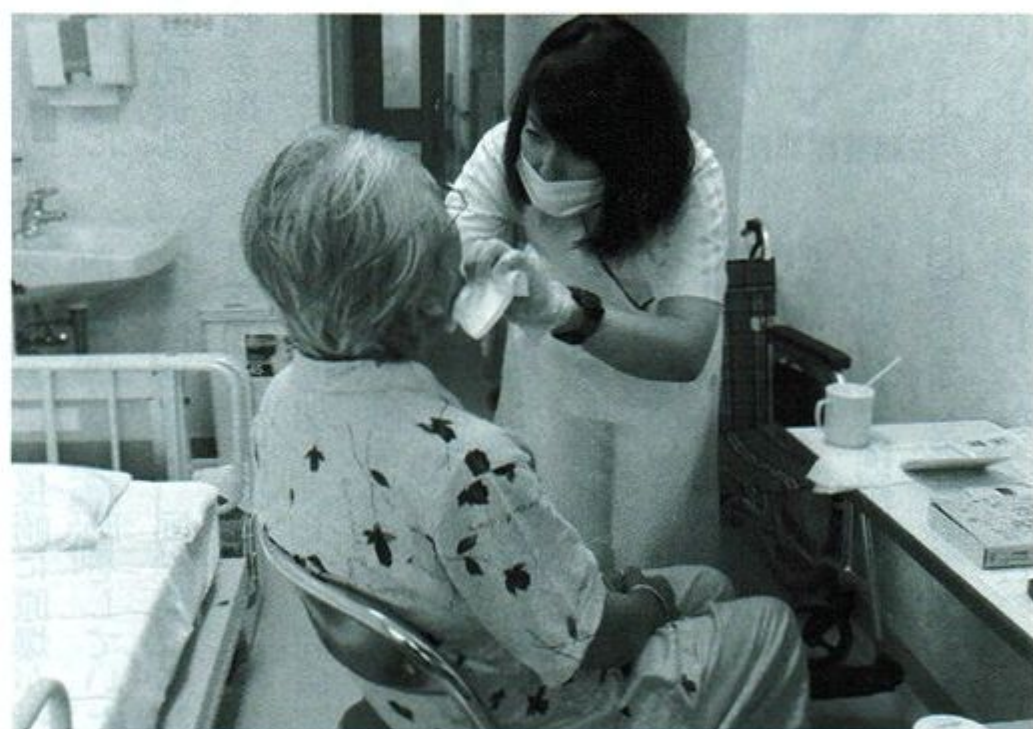
さらに詳細にデータを解析していく予定です。

言語聴覚士にとっても、歯科衛生士による口腔ケアの実践は業務の効率化につながりました。摂食嚥下訓練を開始する際、口腔内の衛生状態を整える必要があるケースが多かったのですが、

歯科衛生士の常勤化によって摂食嚥下訓練がすぐ開始できるようになりました。

また、管理栄養士は、口腔内の清潔が保たれることで味覚が改善され、食欲の増進につながっていると評価。虫歯や歯の欠損、口腔内の痛みは食欲に影響を与えるため、歯科衛生士と共に口腔内の状況を把握し、患者個々に合わせた食事の提供も行い、満足度の向上にもつながっています。

「前述したように、介護報酬上の加算だけでは歯科衛生士の常勤化は採算が合わないのが現状です。しかしながら、包括払



口腔ケアを行う山本歯科衛生士

いである介護病棟や回復期リハビリテーション病棟では、誤嚥性肺炎予防による薬剤や医療材料の持ち出し等が軽減され、経済的メリットが期待できます。患者さんに対してもケアの質やQOLの向上、加えて在院日数の短縮などもメリットとして大きいと考えます」。

今後は同法人の介護老人保健施設でも口腔ケアを実施する意向。また、多職種によるチームによる病棟のラウンド、在宅への展開など、次のステップアップも視野に取り組みを継続していきたいと看護部長は話します。